

地域×市×大学での ICT 獣害対策進行中！
～福知山市スマートシティ推進事業 有害鳥獣捕獲～
モデル地区での地域主体の獣害対策で農作物被害を軽減



<スマートシティ推進事業(有害鳥獣捕獲)の概要>

- 福知山市では、三和地域川合地区と夜久野地域直見地区を獣害対策のモデル地区に指定し、兵庫県立大学と連携して地域主体の獣害対策を支援しています。
- モデル地区においては、遠隔でリアルタイムに映像が確認できる ICT 囲いわなや、野生動物の動きに反応して撮影するセンサーカメラ等の ICT 機器を活用した獣害対策を実施しています。
(ICT 囲いわな 1 基、センサー付き箱わな 8 基、センサーカメラ20台程度をモデル地区に設置)

<これまでの取組みの成果>

- 狩猟者頼みの獣害対策から地域主体の獣害対策へ！
⇒ICT 機器を活用することにより、野生動物の動きや誘引の状況を可視化することで捕獲のハードルを下げ、地域全体でわなの管理を実施する体制を構築することができました。
- 獣害対策が地域の活性化に！
⇒獣害対策のワークショップを通じて移住してきた非農家の方も獣害対策に積極的に協力してくれるなど、地域内での交流が盛んになりました。
- 地域の協力で捕獲数増加！(0 頭→16 頭)
⇒直見地区では 12 基の捕獲檻・柵を地域で管理していましたが、令和 2 年度の捕獲数は 0 頭でした。効果的な誘引方法の指導を行い、地域の方が協力して誘引を行ったところ、令和 3 年度は 4 月から 12 月までの間に 16 頭(シカ 14 頭・イノシシ2頭)もの捕獲に成功しました。
- 農作物被害の大幅な軽減！
⇒集落周辺の山際及び農地周辺の侵入防止柵の点検回数を増やし、補修作業を徹底したところ、昨年被害の発生した農地への侵入を防ぐことができ、農業共済の対象となるような被害をゼロに抑えました。

<今後の事業の展開>

- モデル地区において地域・市・大学が協働して実施してきた獣害対策の取組みについて、他の地域でも横展開できるようにノウハウを集積し、地域主体の獣害対策を推進します。
- 兵庫県立大学と連携して ICT を活用したデータの可視化システムを導入し、侵入防止柵や集落管理のわなの位置などの防除体制と、過去の被害状況等を一元管理し、1 つの地図にマッピングすることによって、地域における獣害対策に活用します。

【本件に関するお問合せ】

福知山市役所 農林業振興課 畜産・有害鳥獣対策係 担当：望月（鳥獣対策専門員）
TEL：0773-24-7047 FAX：0773-23-6537 E-mail：noushin@city.fukuchiyama.lg.jp

～福知山市スマートシティ推進事業 有害鳥獣捕獲～

(概要) 福知山市スマートシティ推進事業 有害鳥獣捕獲

■モデル地区 及び コアメンバー	○三和地域川合地区	6農区（大原、台頭、上川合、岬、下川合、加用） 川合地区農場づくり協議会(会長：小原一泰)
	○夜久野地域直見地区	3農区（大岬、桑谷、西垣） 直見中地区営農組合(組合長：中島松治)
■活動内容	・対象獣の生態等に係る座学、わなの誘引方法の現地指導を含む月1回の定期ワークショップ ・センサーカメラを用いた獣の侵入経路等の確認及び効果的な誘引の実施 ・集落内の侵入防止柵の定期的な点検および地域による自主補修	
■モデル地区 設定の経緯	令和2年度に実施した有害鳥獣捕獲等推進モデル農区選定業務(㈱野生鳥獣対策連携センターへの業務委託)及び地域からの要望に基づき、獣害が大きく、地域における獣害対策の核となる人材がおり、積極的に対策に取り組むことができると判断した地域から選定。	
■ICTの活用	・三和地域下川合農区に設置したICT 囲いわなの映像を、各農区長に配布したタブレットや個人のスマートフォン等でリアルタイムで確認できる体制を整え、これまでは狩猟免許保持者しか関わることのなかった有害鳥獣の捕獲について、地域全体で進捗の共有をすることができた。 ・センサーカメラの映像データや毎月のワークショップでの指導のポイント、捕獲結果の写真等をLoGo チャットで各農区長のタブレットに配信し、綿密な情報共有ができた。	

(参考) ICT 囲いわなの活用方法 (㈱アイ・エス・イーHP より抜粋)

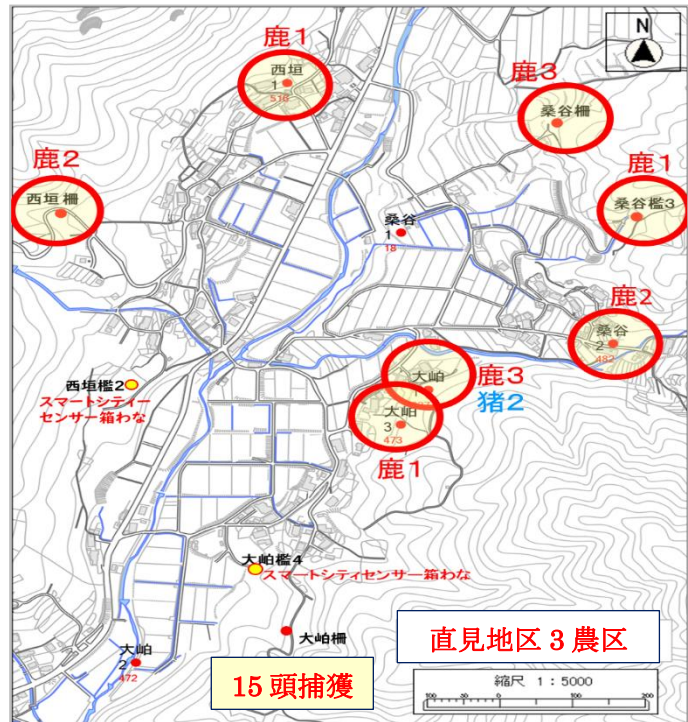


獣害対策を通じた地域の活性化を目指して

- 市の鳥獣対策員が中心となり、兵庫県立大学の山端直人教授(兵庫県森林動物研究センター主任研究員)に捕獲技術や正しい防除の方法、他地域での成功事例等を教えていただきながら地域主体での獣害対策を実施してきました。
- 集落内の侵入防止柵の点検やセンサーカメラの設置による獣の侵入経路の特定、過去の被害箇所の可視化などを行い、加害個体の適切な「捕獲」と圃場周辺の徹底的な「防除」の両立が農作物被害の軽減につながるという獣害対策の基本をワークショップを通じて地域と共有してきました。
- これまでは「イノシシ・ニホンジカ等による農作物被害を軽減したいが、具体的に何をどうしたらよいか分からない」「自己流で電気柵を張ってみたが効果が無い」と悩んでいた地域の方に、根拠や経験に基づいた具体的な対策方法をお伝えし、地域の方が主役となる獣害対策を目標に活動を行っています。
- ICT 囲いわなやセンサーカメラを導入することで、わなへの誘引状況等を可視化することができ、これまで狩猟免許保持者のみが行ってきた捕獲活動に、地域の方が積極的に参加できるようになりました。これにより、獣害対策を通じて集落内での交流や意見交換が活発に行われるようになりました。
- 農区長や営農組合の方が対策の中心メンバーですが、大阪から移住された非農家の方が侵入防止柵の点検や、捕獲用のわなの見回り・餌撒きなどを積極的に行っていただいたりと、獣害対策を通じて地域の交流がより活発になっている地域もあります。

モデル地区での獣害対策の成果

- 三和地域川合地区に設置したICT囲いかなでは毎日の誘引状況をタブレットやスマートフォンでリアルタイムで視聴することができたため、ワークショップを通じて得た知識をもとに、自分たちで行った誘引の成果を可視化することができました。これまでは分からないことが多かった捕獲についても関心を持って取り組むことが出来るようになり、集落全体でわなを管理する体制が構築できました。
 - 夜久野地域直見地区では年2回しか実施していなかった侵入防止柵の点検・補修作業を、2か月に1度に増やした結果、稲の被害が激減し、農業共済の対象となるような被害はゼロになりました。
 - ワークショップでの提案をもとに、集落内で老朽化したり、故障したまま放置されていた箱わなや囲いかな合計4基を地域の方が協力して修繕・再稼働させ、粘り強い誘引を継続した結果、4月から12月までの9か月間で16頭(シカ14頭、イノシシ2頭)の捕獲に成功しました。自分たちの努力や工夫が結果に結びついたことで、地域の獣害対策のモチベーションも高まっています。
 - 各モデル地区で捕獲できたニホンジカのうち、状態が良い個体については近隣のジビエ加工施設で食肉やペットフードに利活用されています。地方都市における鳥獣被害は大きな課題ですが、そこで得られた捕獲鳥獣を資源として有効活用することは、生態系の維持や農林業の保全のみならず、今後の持続可能な地域づくりというSDGsの観点からも重要視されています。
- (三和地域川合地区で獲れた個体については京丹波自然工房(船井郡京丹波町塩田大將軍10-1)、夜久野地域直見地区で獲れた個体については(有)田舎暮らし(夜久野町直見915-2)で処理。)



今後の取組みについて

- R3年度は地域・市・大学が協働して実施してきた獣害対策について、R4年度は地域主体で自主的に取り組みを継続できるようにするため、地域の中で獣害対策の核となる組織を結成し、農作物被害をゼロにすることを目標にモデル地区における獣害対策を継続支援します。
- 当該地区での取り組みを他の地区でも横展開できるようにそのノウハウを集積します。
- 兵庫県立大学と連携し、ICTを活用したデータの可視化システムを導入し、侵入防止柵や集落が管理しているわな等の設置箇所や、月毎の捕獲頭数、耕作地の作物種別や時期別の被害状況のデータ等を一元管理し、地域における獣害対策に活用します。

【本件に関するお問合せ】

福知山市役所 農林業振興課 畜産・有害鳥獣対策係 担当：望月（鳥獣対策専門員）
TEL：0773-24-7047 FAX：0773-23-6537 E-mail：noushin@city.fukuchiyama.lg.jp